

自然エネルギーでまちづくり

先月、「祝島自然エネルギー100%構想」が発表され、マスコミでも大きな話題として採り上げられました。地球環境への意識の高い人や祝島を応援してくれる全国の多くの皆さんの支援を受け、太陽光発電やバイオマス発電、小型風力発電など環境にやさしい自然エネルギーを利用して島で電気を作り、まずはエネルギー自給率100%をめざそう、という計画です。将来的には、農漁業が元気になる仕組みや、自然環境を活かしたエコツーリズムなどによって、経済的にも自立できるような環境を整えていこうと考えておられるようです。今後の展開が注目されます。

◎自然エネルギー利用の現状

さて、皆さんは自然エネルギー自給率100%以上の自治体が全国にどのくらいあると思いますか？ 2009年3月の統計では全国で57の市町村が地元で作られた自然エネルギーが地元のエネルギー消費量を上回る、自給率100%以上を達成しています。1位は熊本県五木村で自給率はな

自然エネルギー自給率 ベスト10

順位	市長村	自給率 (%)	主なエネルギー源
1	熊本県五木村	1685.0	小水力
2	大分県九重町	1334.1	地熱、小水力
3	福島県柳津町	1058.7	地熱、小水力
4	熊本県水上村	893.8	小水力
5	長野県大鹿村	828.4	小水力
6	群馬県六合村	651.5	小水力、地熱
7	長野県平谷村	602.0	小水力
8	宮崎県西米良村	570.0	小水力
9	北海道苫前町	535.8	風力
10	青森県東通村	497.5	風力

んと1685%、主なエネルギー源は小水力。続いて2位は大分県九重町の1334%、地熱と小水力がエネルギー源です。小水力発電は、ダムを必要としない流れ込み式のもので、農業用水路を流れる水なども利用されています。ダム開発が進む前は日本の電力供給の主役を担っていたそうです。自然エネルギー自給率の高い地域では、売電による収入が地域経済を支え、また設備のメンテナンスなどで地元雇用を生み出しているようです。

自給率で見ると、自然豊かで人口の少ない農村部が上位になりますが、単位面積当たりのエネルギー供給密度では都市部も上位に入っており、特に太陽光発電では1位大阪、2位東京、3位神奈川と都市部が上位を占めています。それぞれの地域の特性を活かした自然エネルギーの利用が進められています。上関町には太陽光・風力・潮力などが向いていると言えそうです。

現在、日本では太陽光発電については余剰電力の固定価格買い取り制度ができていますが、すべての自然エネルギーの全量固定価格買い取り制度が実現すれば、自然エネルギー利用が爆発的に普及すると言われています。現にこの制度を導入したドイツ・スペイン・中国などでは、その後自然エネルギー市場が急拡大し、関連産業の伸びによる雇用増加にも貢献しています。日本でも、一日も早く自然エネルギー全種類の全量固定価格買い取り制度ができることを望みます。

◎自然エネルギーの町、岩手県葛巻町

「自然エネルギーの町」として全国の自治体から注目を集めている岩手県葛巻町。スキー場もゴルフ場もリゾートもない、高

速道路も鉄道もなく、「ないない尽くしの町」と呼ばれていたこの町が、高原を吹く風を利用した風力発電3基を設置したのは1999年のこと。京都議定



葛巻町の風力発電施設

書の締結で社会全体で環境への意識が高まり、これを機に住民が一丸となって「ないことを嘆くのではなく、あるものを活かそう」と発電の転換を図ったのがきっかけ。その後、2003年には民間企業が12基を設置し、合計15基の風車が年間約5600万キロワットの電力を生み出し、町の電力エネルギー自給率は166%に達しています。余剰電力を東北電力に売電し、町は固定資産税として年間約2500万円の税収を得て、これが町の大きな財源になっているとのこと。

風力だけではなく、地元で酪農を営む農家から出てくる牛糞を利用したバイオガスからは熱や電気を生み出し、製材所の廃材からは木質ペレットを生産し、町ではこのペレットを燃料にするペレットストーブや薪ストーブの設置を奨励しています。中学校には大規模な太陽光発電を設置、ソーラー街灯、地中熱利用の工宅住宅、大がかりな炭焼き釜の導入、小水力発電など、さまざまな自然エネルギーを活用し、町全体が「クリーンエネルギーのショールーム」になっています。

この他にも豊かな森林資源や広大な酪農地、廃校になった校舎など、あるものを活かしたさまざまな取り組みが行われ、町を

訪れる人は10年間で19万人から52万人に増加し、UターンやYターン者も増えているとのこと。葛巻町の町長さんは「これからは山村も都会から人を連れて来る時代です」と話されています。

「まちづくり」にチャレンジ(2)

◆情報発信のさまざまな手段

前回から始まった連載、今回は情報発信の手段と特徴について紹介します。

【ポスター・チラシ】イベント告知や宣伝などに。ポスターはハッと見て伝わるように。チラシは置く、送る、配るなど、広め方も考えて。【パンフレット】団体の自己紹介などに。【会報】会員への定期的な情報発信に。身内が対象でも読みたくなる工夫を。

【ホームページ・ブログ】不特定多数への情報発信に。スピーディーに情報発信することができる。見てもらうには頻りに情報の更新を。

【メールマガジン】会員への情報発信に。【ビデオ・DVD】あれこれ説明するより映像で見せると説得力がある。

【FAX】紙で届くので手にとってもらいやすい。マスコミへの情報提供などに。

【公共の掲示板】地域の人に伝える。【マスメディア】新聞・テレビなどの報道。タイムリーな話題なら取材してもらえることもある。宣伝効果は絶大。

【コミュニティメディア】ケーブルテレビやタウン誌など。地域の人に伝える。【イベント】体験しながら伝えられる。

【話す】人の言葉はやはり説得力が強い。

伝えたい内容や相手、予算などによって適した方法を選びましょう。

